

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	診 断	治療方法	予防方法	感染期間	登園のめやす	保育所において留意すべき事項
B型肝炎	B型肝炎ウイルス (HBV)	急性感染では45～160日 (平均90日)	母子など垂直感染 父子や集団生活での水平感染 歯ブラシ等の共用による水平感染 性行為感染 最近、成人になっても慢性化率の高い遺伝子型AのB型肝炎ウイルスが海外から入ってきて国内で広がっている。	乳幼児期の感染は無症候性に経過することが多いが、持続感染に移行しやすい。 急性肝炎の場合 全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸など。 慢性肝炎では、自覚症状は少ない	血液中のHBs抗原・抗体とHBe抗原・抗体検査 ウイルスの定量検査	急性肝炎には対症療法 慢性肝炎にはインターフェロン療法 最近抗ウイルス剤の使用も行われる。	B型肝炎ワクチン 平成24年11月現在、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会では、任意接種のワクチンのうち、7つのワクチンは広く接種することが望ましいと提言を出しているが、B型肝炎ワクチンもこの7つの中に含まれている。 世界保健機構 (WHO) ではすべての子どもにワクチン接種を推奨している。	HBs抗原、HBe抗原陽性の期間を含めB型肝炎ウイルスが検出される期間	急性肝炎の場合、症状が消失し、全身状態が良いこと。 キャリア、慢性肝炎の場合は、登園に制限はない。	<ul style="list-style-type: none"> 新生児期を含め4歳頃までに感染を受けるとキャリア化する頻度が高い。(キャリアとはHBs抗原陽性の慢性HBV感染者のこと) HBV母子感染予防対策事業 (HBsヒト免疫グロブリンとB型肝炎ワクチン) が開始され母子感染による感染は激減した。 母子感染だけではなく、父子感染や集団生活での感染等、水平感染の報告もある。 入園してくる乳幼児がキャリアであるか否かを事前に知ることが困難である。 一般に、血液・滲出液が直接皮膚や粘膜に触れることは、感染症の感染リスクが高い。このため、血液・滲出液に触れるときには使い捨て手袋を着用し、血液・滲出液が目や口に入らないように気をつける。特に、職員が手に傷を負っている場合は、傷のある皮膚や粘膜で直接的な接触をしないよう、傷を覆うようにする。 ※体液 (尿、唾液など) に、傷のある皮膚で触れることで感染するリスクも考えられるので、同様の対応を心掛けることが望ましい。 ※職員が手に傷を負っている場合は、自分の血液・滲出液が他の人に触れないよう配慮することも必要である。 これらと併せて、すべての人に一般的な感染症対策を講じ、集団生活の場で他人のウイルスから感染し、あるいは感染させることのないよう配慮する。 キャリアの子どもが非常に攻撃的で、噛み付きや出血性疾患がある等、血液媒介感染を引き起こすリスクが高い場合は、主治医、施設長、保育者が個別にリスクを評価して対応する。